

内 容 の 紹 介

通巻第109号 Vol. 15. No. 3

No. 492 シールド模型推進時の土の動き——(透明箱による実験)——

シールド模型として直径 10 cm の半円形パイプを砂中に入入させ、砂層中に生ずる変動を透明箱を用いて種々の角度から調べた。この結果、パイプ先端の開口率、土カブリ深さ、砂層の密度および砂の状態(乾燥か水締め)により土中の変動状況が影響されることを明らかにした。さらにスベリ面の発生間隔、砂層中に生じた乱れ度、表面盛り上りに対するこれら要素の関連性について調査した。

(森, 石原)

No. 493 荊田調整池ダムの設計と施工(施工編)

1966年6月号(101号)で設計編を報告したが、今回は施工編として、とくに「施工中に発生した間ゲキ水圧および土圧の計測結果と設計値との関係」について比較、検討したものである。

(中西, 大根)

No. 494 マサ土の工学的性質について

マサ土地帯の切り取り斜面の状態を粘土鉱物学的、化学的土質工学的に調査した結果である。京都比叡山のマサ土地帯に切取られた斜面について切取り前の状態を粒度、化学成分、鉱物組成の観点から明らかにし、これらが、切取り後の変化にいかなる影響を及ぼすかを調べた。

その結果、切取り前の風化は密度、粘土鉱物、化学組成の上に顕著な相異があるが、切取り後の変化は、不安定な状態にある土粒子の細粒化、化学的溶脱が顕著であることを述べた。

(松尾, 西田, 山下)

(投 稿 規 定)

1. 「土と基礎」は土質工学に関する理論ならびにその応用についての研究成果を普及し、あわせて学会活動や会員相互の意見発表の場を提供することによって、土質工学会機関誌としての役割を果たすことを目的としています。

2. したがって、学術研究論文はもとより、技術報文ならびに現場報告など、広範囲な内容にわたって、会員諸兄からの投稿を歓迎しています。また理解を深め、実用性を高めるために、すでに掲載された内容についての討議、質疑や、学会に対する意見などもどしどしお寄せください。

3. 原稿には本文中の写真のほか、できるだけその内容を示すような口絵写真(キャビネ判)を添えてください。

4. 原稿のページ数は誌面の都合上、つぎの規定を守っていただきます。(学会原稿用紙400字詰6枚で1ページ)

論文、報文、資料……………8ページ以内(図、表、写真を含む)

随想、ひろば、ニュースなど……4ページ以内(図、表、写真を含む)

5. 原稿用紙は、会誌部あて請求されれば、無料でお送りします。(くわしい執筆要領もついています)

掲載原稿については、原稿料をさしあげます。ただし、原稿の掲載の可否、順序、用語、その他については、「土と基礎」編集委員会にご一任ください。

内 容 の 紹 介

No. 492 シールド模型推進時の土の動き——（透明箱による実験）——

「土と基礎」Vol. 15 No. 3 通巻第 109 号 昭和 42 年 3 月発行

森 麟, 石 原 金 洋

シールド模型として直径 10 cm の半円形パイプを砂中に貫入させ、砂層中に生ずる変動を透明箱を用いて種々の角度から調べた。この結果、パイプ先端の開口率、土カブリ深さ、砂層の密度および砂の状態（乾燥か水締め）により土中の変動状況が影響されることを明らかにした。さらにスベリ面の発生間隔、砂層中に生じた乱れ度、表面盛り上りに対するこれら要素の関連性について調査した。

No. 493 荇田調整池ダムの設計と施工（施工編）

「土と基礎」Vol. 15 No. 3 通巻第 109 号 昭和 41 年 3 月発行

中 西 信 隆, 大 根 義 男

1966 年 6 月号（101 号）で設計編を報告したが、今回は施工編として、とくに「施工中に発生した間ゲキ水圧および土圧の計測結果と設計値との関係」について比較、検討したものである。

No. 494 マサ土の工学的性質について

「土と基礎」Vol. 15 No. 3 通巻第 109 号 昭和 42 年 3 月発行

松 尾 新 一 郎, 西 田 一 彦, 山 下 親 平

マサ土地帯の切取り斜面の状態を粘土鉱物学的、化学的、土質工学的に調査した結果である。京都比叡山のマサ土地帯に切取られた斜面について切取り前の状態を粒度、化学成分、鉱物組成の観点から明らかにし、これらが、切取り後の変化にいかなる影響を及ぼすかを調べた。

その結果、切取り前の風化は密度、粘土鉱物、化学組成の上に顕著な相異があるが、切取り後の変化は、不安定な状態にある土粒子の細粒化、化学的溶脱が顕著であることを述べた。

前ページの内容紹介は、一つずつ切り取って
パンチカードに整理できるように作製したも
のですからご使用ください。

〔会 告〕

春季講演会のお知らせ

主 催 社 団 法 人 土 質 工 学 会

日 時：昭和 42 年 5 月 25 日（10.00～16.00）

会 場：東京・新丸ビル会議室（新丸ビル地下）東京駅下車，宮城寄り

聴 講：無 料

講演題目および講師

10.00～11.00	鋼グイ設計の最近の問題点	建設省 大 崎 順 彦
13.00～14.00	縦貫道路の土質工学上の問題	日本道路公団 木 村 保
14.00～15.00	超高層ビルについて	鹿島建設KK 武 藤 清
15.00～16.00	青函トンネルについて	日本鉄道建設公団 粕 谷 逸 男

映 画

16.00～16.30	青函トンネルに関するもの	日本鉄道建設公団提供
-------------	--------------	------------

注）題名は仮題で講師の交渉中のものもあり多少の変更があるかも知れませんのでご了承ください。

第 9 回通常総会開催のお知らせ

昭和 42 年 3 月

会 員 殿

社団法人 土質工学会

会 長 星 埜 和

定款第 20 条にもとづき，例年のとおり下記により，第 9 回通常総会を開催いたします。会員多数のご出席を望んでやみません。

記

日 時：昭和 42 年 5 月 25 日（木） 11.00～12.00

会 場：東京・新丸ビル会議室（新丸ビル地下）東京駅下車，宮城寄り

総会付議事項

1. 昭和 41 年度事業報告
2. 昭和 41 年度収支決算報告
3. 昭和 42 年度事業計画
4. 昭和 42 年度収支予算
5. 社団法人土質工学会定款の一部変更について
6. 役員ならびに参与辞任にともなう選任

土のサンプリングに関するシンポジウム

土のサンプリング指針を発行して以来2年余りになります。当時、土のサンプリングの標準方法を判定するためには、まだまだ数多くの問題が残されており、その後の改訂を前提として“指針”が作られたわけであり、最近の多くの実践・研究の結果をシンポジウムで交換、討論し、さらにサンプリング技術の向上を計りたいと考えます。会員諸兄の多数ご参加を期待いたします。

開催期日：昭和42年5月24日

開催場所：八重洲口ビルホール（東京都中央区京橋1の4）

午前の部——土のサンプリング指針についての討論——

午後の部——軟弱地盤のサンプリングに関する研究発表と討論——

参加申込み方法：会場の都合により定員200名に制限されますのでお早めにお申込みください。なお、参加費は無料、申込みは電話、はがきいずれも可。

配布資料（オフセット印刷）は当日原価にて有料配布

申込み先：東京都港区西新橋1丁目13番5号（東亜別館）

社団法人 土質工学会調査部 Tel. (502) 6256~8

第12回土質工学シンポジウム（発表論文募集）

第12回土質工学シンポジウムを下記により開催いたします。主題は土質工学における安全率というものの考え方および算定にあたっての問題点等に関することを考えております。ふるってご応募ください。

開催時期：昭和42年9月下旬

開催地：東京都内

主 題：「土質工学における安全率について」

発表論文の申込みは下記の要領でお願いいたします。

- (1) 発表論文の申込みは6月10日までに所定の申込み用紙に題目および概要（400字程度）その他必要事項を記入の上お申込みください。ただし応募多数の場合には選考することがあります。
- (2) 申込みを受付けた場合には、所定の原稿用紙（1,750字用）をお送りいたします。原稿の長さは1編につき図表を含めて4枚もしくは6枚とします。規定の枚数を超過した場合には実費差額を申し受けます。
- (3) 原稿は7月10日までに提出願います。期限までに提出されない場合には発表を取り消しにいたしますからご注意ください。
- (4) 原稿は本文、図面とも墨書または黒字タイプで鮮明に願います。できればタイプが望ましい。
- (5) シンポジウム当日の口頭発表は1編につき20分程度とします。
- (6) 問い合わせがございましたら下記に願います。

東京都港区西新橋1丁目13番5号（東亜別館）

社団法人 土質工学会調査部 Tel. (502) 6256~8

第2回土質工学研究発表会（発表論文募集）

昨年に引き続き、第2回土質工学研究発表会を下記により開催いたします。ふるってご応募ください。

開催期日：昭和42年11月7日・8日

開催場所：福岡大学工学部（福岡市七隈）

発表論文の申込みは下記の要領でお願いいたします。（前号会告とは多少変更いたしますのでご注意ください）

- (1) 発表論文の内容は土質工学に関するもの。
- (2) 発表論文の申込みは6月30日までに所定の申込み用紙に題目および概要（400字程度）その他必要事項を記入の上お申込みください。ただし応募多数の場合には制限することがあります。

- (3) 申込みを受付けた場合には、所定の原稿用紙(1,750字用)をお送りいたします。原稿の長さは1編につき図表を含めて4枚もしくは6枚とします。規定の枚数を超過した場合には実費差額を申し受けます。
- (4) 原稿は7月31日までにご提出願います。期限までに提出されない場合には発表を取り消しにいたしますからご注意ください。
- (5) 原稿は本文、図面とも墨書または黒字タイプで鮮明に願います。
- (6) 当日の口頭発表は1編につき20分程度とします。
- (7) 問合わせがございましたら下記に願います。

※ なお、発表会に付帯して見学会(主として天草五橋)も開催する予定です。

東京都港区西新橋1丁目13番5号(東亜別館)
社団法人 土質工学会調査部 Tel. (502) 6256~8

「土質工学に関する東南アジア地域会議」のお知らせ

開催日: 昭和42年4月24日~4月29日

開催地: タイ国, バンコック

主催: SEATO Graduate School of Engineering

後援: ASCE, ICE, Engineering Institute of Thailand

議題:

- (1) 主として東南アジア地方の土の特殊性に関連した研究の発表と討論; 提出論文77(12カ国)
- (2) 土質工学会をもたない東南アジア諸国に対して地域学会を作ることの討論

土の動力学に関するシンポジウム

— 土中の波動の伝播 —

主催: ASCE

University of New Mexico

開催期日: 1967年8月23日~25日

開催地: Albuquerque, in New Mexico

※プログラムについての詳細は5月頃にお知らせします。

「Soil and Foundation」原稿募集

英文雑誌(Soil and Foundation)の原稿を以下の要領で募集いたします。

英文雑誌(Soil and Foundation)の投稿要領

1. 原稿は英文で書き、白いタイプ用紙(A4判)へダブルスペースでタイプする。
ただし天地両側に約2.5cmの余白を残すこと。
2. 原稿は、図、表、写真および参考文献こみで30枚を越えないことが望ましい。
3. 論文には400字以内の日本語、150語以内の英文の要約を付ける。